



# interview

(有)Willさんいん 代表取締役  
長谷川陽子さん

ケータイやインターネットの危険性について、県内の子どもたちや教職員、保護者対象の研修会でお話していらっしゃる長谷川陽子さん((有)willさんいん代表取締役)にインタビューしました。

## Q:ケータイのことで気になることはありませんか

これまでに県内の80校ぐらいの学校でお話させていただいていますが、子どもたちの無防備ぶりに驚くことが多々あります。ブログ(日記風掲示板)に個人情報をつい載せてしまう子どもの心理は、大人にはなかなか理解できない面があります。まるでテレビに出るかのような感覚でプロフィール(自己紹介サイト)を立ち上げている子どもたち。そのプロフィールが悪意のある業者に「援助交際相手サイト」として勝手にリンクを張られてしまうことに気づかない子どもたち。掲示板やチャット等のインターネット上への書き込みは、文字だけなので、誰でも中・高校生になれてしまうことに気づいていない子どもたち。ケータイを持っていないと不安、友達とつながっていないと不安というケータイ依存になってしまっている子どもたち。

ケータイは、子どもたちにとって最新の情報を得ることのできる魅力的な遊び道具です。特に子どもたちにとって娯楽の少ない地域では、子どもたちはケータイにハマってしまう傾向が見られます。ネットトラブルに出会ってしまったりする危険が島根は都会よりも多いと言えます。

多くのトラブルや問題が起こってからの方策ではなく、日ごろから、ネットの良いところと【何が危険なのか】を、無防備な子どもたちに自分のこととして認識させる必要があると感じています。

## Q:特に知ってほしいことは何ですか？

「迷惑メールがよく来るようになったんだけど、どうしてですか？」と子どもたちから相談されることがよくあります。「ネット上にメールアドレスが流失しているんだよ。」と教えてあげて、次の説明をします。

実は、無料で音楽やゲームがダウンロードできるサイトに自分のメールアドレスを打ち込んだりすると、メールアドレスがネット上に漏れてしまい、迷惑メールがたくさん来るようになってしまうことがあります。アド変(携帯のメールアドレスの変更)を知らせるメールをTOやCCで一斉に送ってしまうと不特定多数の人にアドレスがわかってしまいます。個人情報を知らせないようにBCC(ブラインドカーボンコピー)で送る必要があることを知ってほしいと思います。チェーンメールでも同じです。チェーンメールは、送ったりしないで無視することが大切ですが、怖いものやだますもの等巧妙で悪質なものが架空請求と合わせて増えていますので、注意が必要です。

## Q:安全上持たせていることはどう思いますか？

小学生にケータイを安易に与えている保護者もありますが、ケータイの使い方を保護者がきちんと教えてあげるべきで、そうでなければ、与えるべきではないと思います。また、GPS機能のついた携帯電話で居場所が分かるので安心だと思っているけど、携帯電話の場所が分かるだけで、本人と違う場所があれば分かりません。本当に安全とは言えないのです。連絡の手段として便利な物ではあるけど、各家庭で違うと思うので、よく考えてほしいと思います。

## Q:子どものケータイに悩む保護者の方へのアドバイスをお願いします。

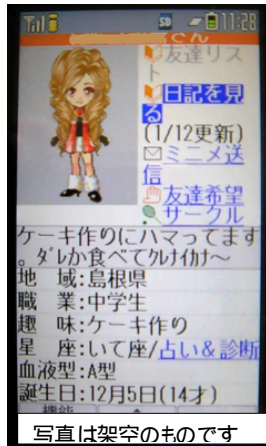
まず、保護者の方には、子どものケータイに関心をもってほしいですね。「ケータイのことはわからない」と言わないで、「最近何が流行っているの?」と保護者の方から子どもに聞いてもらうと、子どもたちが何に夢中になっているか分かると思います。子どもとコミュニケーションがうまくとれていない保護者の方にとっても、よい機会になると思います。

子どもたちに「あれしちゃダメこれしちゃダメ」と言うよりも一緒にやってみて、やりながら「あら、これはなんじゃない?」と考える時間を共有する方が親もインターネットの危険性を理解できるのではないのでしょうか。BBS(掲示板)を見てみたり、無料のSNS(交流できる会員制サービス)に加入するなど一緒に体験してみましょう

「みんなが持っているから、持たせる。」のではなく、保護者が携帯電話の予備知識をもつことがまず必要です。

もう一つは、子どもだけのルールを押しつけるのではなく、「携帯電話の充電器は家族みんな一緒にリビングに置く」などの家庭のルールを決めて、子どもにだけでなく、大人も一緒に守るようにすることが大切です。子ども扱いをするのではなく、子どもにも大人と同じように責任を持たせることで、子どもたちの自覚が生まれると思います。

学校へのケータイ持ち込み禁止の動きについては、くさい物にふたをするだけで抜本的な解決になっていません。子供を持つ親として、またインターネット業界に従事するものとして、きちんと利便性と危険性を伝えて参りたいと思っています。



写真は架空のものです